

長い伝統と県内最大級の規模

翠巒山祭

翠巒（すいらん）祭は、昭和23年から「文化祭」として開催され、その後昭和36年に「翠巒祭」と名称が変更された。その後現在まで続いている、伝統のある行事である。現在では、翠巒祭は高高の一丸となって協力して創り上げている。今年の6月に行われた第72回翠巒祭では、第67回翠巒祭以降5年ぶりとなる入場無制限開催で行なわれ、多くの観客が来場した。クラス展示、部活動展示や体育館行事、イベントステージなどが行なわれた。クラス展示、部活動展示の人気投票の結果では、クラス展示では216、

217合同展示の「トロッコタカペンチャー」、部活動展示では鉄道研究部の展示が1位を獲得した。

翠巒祭は実行委員会を中心として生徒主体で開催されている。翠巒祭を主導する実行委員会は、15の班、23の課によって構成されていて、今年度は264人が参加した。翠巒祭は実行委員会なしでは成り立たないものとなっている。そこで、来年度の第73回翠巒祭実行委員長になった清水孝一くん（2の1）に話を聞いた。

まず、自身の考える翠巒祭の魅力について尋ねると、「翠巒祭の最大の魅力は、実行委員や先生方だけでなく、部活動や一般生徒全員が協力して創り上げることにあると思う。また、文化祭が2年に1度開催される高校が多い中、高高では毎年行なわれる点も魅力だ。毎年挑戦を続け、成長を実感することができると答えた。

次に、来年度の翠巒祭をどのようなものに行ないたいかと質問すると、「新しい企画や展示を通じて、より多くの生徒が自分の才能を発揮し、来場者に感動を与えられるようなものに行ないたい。また個人的に、毎年恒例となっている巨大壁画をギネス世界記録に登録したいと考えている。自分の代

でこれを実現することができたら、歴史に残る翠巒祭になると確信している」と話した。最後に、「翠巒祭は高高生が自ら創り上げる群馬県内最大級の文化祭だ。高高に入学した際には、ぜひ皆さんにも実行委員会に参加して、一緒に翠巒祭を創り上げる感動を味わってほしいと思う。翠巒祭の準備を通じて得られる仲間との絆や達成感は一生涯の宝物になる。また、翠巒祭の経験は自分自身の成長にもつながり、多くの事を学ぶ機会にもなるだろう。皆さんが未来の実行委員として新しいアイデアや情熱をもって翠巒祭に参加し、素晴らしいイベントを共に創り上げることを楽しみにしている。その前段階として受検を頑張ってください」とエールを送った。（福田）

自らの精神的な成長目指す 高前定期戦



綱引きの様子

高高には毎年9月に県内のライバル校である前橋高校（以下：前高）とスポーツで競い合う定期戦という行事がある。定期戦は、1949年（昭和24年）に始まり、今年で78回を迎える由緒ある伝統行事だ。現在の戦績は、高高が46勝25敗3分（中止3回）となっている。また、高高は昨年度史上最高の8連覇を達成

した。この定期戦に向けて、両校の生徒は実行委員会を中心に練習に励んでいる。特に、玉入れ、綱引き、駅伝は得点の割合が高く、練習に重点が置かれている。しかし、昨年度の定期戦ではこのうち玉入れと駅伝で前高に敗北したため、実行委員会を中心とした生徒は、これらの対策を練りながら練習を行っている。このように、高高では、勉強だけでなく学校行事にも力を注いでいる。この定期戦を通して、多くの人が自分自身の精神的な成長に繋がっている。ぜひともこれから高高を目指す中学3年生の皆さんには、高高に入学したならば、この定期戦という行事にも目を向けてほしいと思う。（樋口）

全国で活躍

部活動成績

高高は、5月に行なわれた令和6年度群馬県高等学校総合体育大会で男子総合2位に輝いた。ソフトテニスとバレーが団体で優勝を勝ち取った。

おり、昨年度2月の新人戦での優勝からここまでで、3冠を達成した。また、7月31日から8月5日にかけて行なわれた第48回全国高等学校総合文化祭には、将棋、文藝、小倉百人一首か

さらに、陸上が混成8種で優勝した。この3つの部活動に加えて水泳、山岳、スキー、卓球が関東大会に出場した。

また、7月31日から8月5日にかけて行なわれた第48回全国高等学校総合文化祭には、将棋、文藝、小倉百人一首か

特にバレーは、県総体に加え6月の全国高等学校総合体育大会群馬県予選会で優勝して

ら活動が盛んである。今後の彼らの活躍から目が離せない。（荻野）

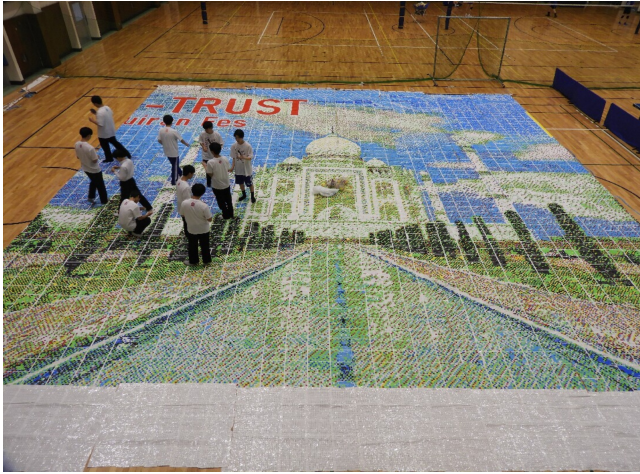
NOTE

高高では、2年次より文系と理系に分かれて授業を行なう。文系と理系の選択は1年次の12月に行なわれ、近年は理系が4クラス、文系は3クラスに分かれている。▼高の2年生は、理系が176人であるのに対し、文系は105人で、全体の37%にすぎない。高高における理系への人数の偏りは今年だけでなく、近年の傾向として顕著である。また、前高も文系に比べて理系の比率が高い学校である。現在の前高の3年生は、高高と同じく理系が4クラスで文系が3クラス、2年生は理系が5クラスで文系は2クラスとなっている。▼理系を選ぶ生徒が多い理由として、自身が行なった研究が職業に直結しやすいという点がある。大学院まで進んで好きな研究を続け、そ

れを将来の職業につなげたいと考えるようだ。事実、男子高校生の将来成りたい職業の中に、エンジニアやIT関連といった理系の職業が上位にランキングされている。また、企業は理系の需要が高い、いざとなったら文転できるといった世間の風潮がある。▼しかし、「就職しやすいから」という理由で、安易に理系を志望することは正しいのだろうか。理系は、専門分野を学んだことで、就職の幅が狭まるというデメリットもある。IT関係等の一見理系の企業でも、営業、広告宣伝、人事、法務、経理などは文系の仕事である。▼文部科学省のデータによると1年間に大学を中退する学生は、全体の約10%というデータがある。改めて自分が本当に学びたいことを見つめ直し、後悔しない選択をしてほしい。（荒井）



アーチの準備の様子



壁画の準備の様子